

2020 年 11 月 13 日

## ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社、新型コロナウイルス感染症の流行が続くなかでの受診行動の変化を調査

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社は、新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか、全国の 20 代から 60 代の男女 4500 人を対象に、診察や検査などの受診行動の変化について調査を行った。

調査回答者の半数が、定期的に診察や治療、検査のために医療機関で受診していたにも関わらず、そのうちの 5 割が新型コロナウイルス感染症への不安から受診を延期しており、なかでも現在に至るまで受診をしないまま過ごしている人が 3 割を占めた。

受診を延期した疾患・部位（歯科を除く）として最も多いのは、男性は全体では血圧となっているが、20 代は心臓、30 代は糖尿病関連と胃が多く、年代による違いが見られた。女性は全体では子宮・子宮頸部が最も多く、60 代は血圧という結果になった。

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を含めた「新しい生活様式」は定着しつつあるものの、感染への不安から受診控えが未だに続いている実態が、今回の調査で明らかになりました。

以上